



鳥獣被害対策で活用される ICT 機器の種類や使い方に関する講座を開講しました。受講生はわなの無線機や捕獲通知システム、センサーカメラや電圧監視システム、GIS、ドローン等の機材の種類や導入の判断基準について学び、その後実物を見ながら機器について学びました。

講座名 茨城県鳥獣被害対策講座「ICT 機器利活用の基礎編」
日 時 令和6年9月19日（木） 午前10時から午後3時まで
場 所 茨城県立農業大学校 121 教室及び屋外スペース
出席者 24名

受講生の声（抜粋）

- ・ 捕獲、防除、生息状況調査等多くの鳥獣被害対策に ICT が活用できることがわかった。
- ・ 各 ICT 機器のメリット、デメリットが理解できた。
- ・ 機器の現物を実際に見ることができて大変参考になった。

講師のコメント

ICT 機器は捕獲、防除等様々な場面で活用されている。同じような機能を果たす機器でも、性能や価格は千差万別であるため、費用対効果を検討しながら現場の状況に合わせて導入を行う必要がある。またセンサーカメラは加害獣種の同定や、現場に出没している頭数を特定できるため、重要である。農作物被害の痕跡や移動の形跡がある場所に対して俯角をつけた状態で設置し、撮影された映像をわなの設置や生息状況の把握に活用してほしい。